

受講番号 19023 学校名 高知小津高等学校 氏名 徳弘 智子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 生徒数 40名
 科目名 英語Ⅰ 単位数(授業時数) 4時間 使用教科書名 Revised POLESTAR English Course I

クラスの様子・特徴

男女同数のクラスで、英語が好きな生徒とそうでない生徒の数がほぼ拮抗している。授業に関しては前向きに取り組める生徒が比較的多く、課題の提出状況も全体的に良い。しかし、授業内容が十分理解できず、集中して学習に取り組むことが困難な生徒もいる。

問題の確定

熱心に学習に取り組んでいる生徒が多い一方で、教科書の英文を理解することが困難で学習意欲がわきにくい生徒も見られる。

予備調査



A 授業の観察

授業に真面目に取り組んでいる生徒が比較的多いが、授業に集中できず、学習意欲がわきにくいという生徒がいる。授業後に熱心に質問に来る生徒がいる一方で、授業に参加を促さなければならぬ生徒もいる。授業中積極的に発言する生徒にも偏りが見られる。

B 生徒による授業評価

授業が理解できている、楽しいと答えた生徒は60%弱で、授業があまり良くわからないと答えた生徒も多く、全く英語に興味がない者も15%いた。全ての技能を伸ばしたいという生徒が多く、自己評価ではほとんどの生徒が授業によく取り組んでいるとしている。

C 学カデータ

クラス平均点(学年平均点)
 4月スタディーサポート: 総合 68.3(67.5)
 語彙 69.8(66.9) 文法 73.7(73.2)
 文構成 71.0(69.5) 読解 52.0(52.7)

リサーチ・クエスト



まとまった英文を読めるようになるにはどのような指導をすればよいのか。

仮説・実践・検証



仮説1



実践1



検証1

語彙が増えれば、まとまった英文を読むことに抵抗が少なくなるだろう。

英文を読む際に知らない単語が多すぎて、読み進むことをすぐにあきらめてしまう生徒がいる。語彙を増やすことで英文を読む際の抵抗感を少なくしたい。

教科書にでてる新出単語を何度も音読し、単語を覚えた上で本文を読んでいく。口頭や復習プリントで語彙の定着を確認する。

副教材の単語集を使い、音読筆写してフレーズの中で単語を覚えていくようにする。毎週一回確認の小テストを行ない、60点未満の者は再テストを行なう。速読練習の最後に新出語を音読して語彙の定着を図る。

教科書や副教材の単語集の学習で、語彙が増えたと認識している生徒が多い。そのような生徒は、英文を読む際に知っている単語が多くなってきたと実感している。しかし、2割程度の生徒は、一度覚えてもすぐに忘れるのであまり語彙が増えたとは思わないという感想を持っている。この点は大きな問題だが、とにかくあきらめず、何度も繰り返し学習して語彙の定着を図っていくことが重要であると思われる。

仮説2



実践2



検証2

英語の語順で、フレーズごとに意味を理解していけば、英語の感覚が身についてくるだろう。

英文を読む際に、意味のまとまりごとに理解しながら、文の最初から英語の語順で読んでいく習慣をつけた。

教科書付属教材のPOLESTARベーシックノートを使って、フレーズごとに内容を理解しながら読んでいく。内容を把握した後に何度も音読して、英語の感覚を身につけるようにする。復習として日英対訳フレーズシートを使って、音読練習をする。

8割程度の生徒は、英語の語順でフレーズごとに英語を理解していくという感覚が身についてきていると感じている。フレーズリーディングはまとまった英文を読んでいく上で非常に大切なので、なるべく多くの英文を読み、いっそうの定着を図りたい。しかし、約2割の生徒はあまりこの感覚が身につけていないと答えているので、もっと音読の機会を増やすなどの工夫をして何とかフレーズリーディングができるようにしなければならない。

仮説3



実践3



検証3

なるべく多くの英文に触れさせていけば、読むスピードも早くなっていくだろう。

教科書だけでは読む英文の量も限られており、教師側の説明も多く、生徒の英文を読むスピードがなかなか速くならない。速読用の教材を使って生徒にまとまった英文を読ませ、継続的に速読の練習をしていくことで読みのスピードアップを図りたい。

1年生は2学期中に教科書POLESTARを一通り終わらせて、その後、教科書の復習と速読の練習をしている。ほぼ毎時間速読用教材Reading Gym標準を使って、英文を読むことに慣れさせて、読むスピードをあげていくための練習をしている。毎回同じ用紙に記録をつけていき、第1回からの速読のスピードの推移が確認できるようになっている。

8割の生徒は速読練習によってある程度まとまった英文を読むことに慣れてきたと感じている。また、英文を読むスピードが以前より速くなったと感じている生徒の割合も8割を超えている。毎回結果が数値として出てくるので、生徒の速読練習に対する意欲は高く、取り組みの姿勢は非常に良い。しかし、2割近くの生徒は現在のところ速読練習の成果をあまり感じられず、語彙の乏しさや読みのスピード不足を感じている。

研究の成果



クラスのおよそ8割の生徒が、語彙の増加を実感し、フレーズごとに意味を理解しながら英語の語順で読んでいくことに慣れてきており、読むスピードも以前より早くなってきていると感じている。自らの成長を実感できるということは学習において非常に大切なことであるので、一定の成果はあったのではないかと授業における学習への取り組みの姿勢を見ても、多くの生徒はまとまった英文を読むことに大分慣れてきており、意欲的に内容理解に努めている。3学期は教科書の復習をするので授業での活動をさらに工夫していかなければならない。

今後の授業改善の課題

約2割の生徒は学習の成果を十分実感できていない。また、時として学習意欲がわきにくく授業に集中できない場面が見られる。このような生徒にもやる気を起こさせるような授業に改善していかなくてはならない。3学期は音読の仕方ももっとバラエティーを持たせ、リスニングの練習も増やしていきたいと考えている。本校の英語科は学年団制をとっているため、1年担当教員と課題を話し合い、協力しながら授業改善を図って生きたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-822-5270

電子メール